

2025年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
ドン・ボスコの教育に立ち返り、柔和を体現し、子ども達と物理的また精神的に共にいる真のアシステンツァを
実践する教師集団を目指す。
2. 園児・児童・生徒・教職員が” Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
(A) 新校舎に向けて、刻々と変わる環境の中で子ども達が安心して過ごせるよう、安全教育をすすめる。
(B) 子ども未来センターと連携を取り、子ども達の心が安心できる環境造りをする
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
(A) 校内研修だけでなく、外部研修で研鑽を高める。
(B) 姉妹校、連携校との連携を進め、相互の教育理解と一致を深める。
(C) 校内での自主研修を励行し、教員集団での学び合いを深める。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
(A) 学園施設の共有を円滑に行うため、校種間の情報共有をすすめる。
(B) 施設の変化を受け入れ、前向きな話し合いを進める。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
(A) 教会やサレジオンシスターズ、地域などのイベントに率先して参加する。
(B) 後援会・同窓会と連携を取り、子ども達の学びにつながるイベントを企画する。
(C) コンプライアンス研修を進め、良心的な人間、良き社会人として成長する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<評価が相対的に高かった10項目> ○建学の精神・教育理念への共感 ○子どもの人間性や道徳心の育成 ○建学の精神・教育理念に沿った教育の実践 ○教育理念の分かりやすい提示 ○個人情報の適切な取扱い ○学校及び学年行事の適切性 ○安全・健康教育の適切性 ○全体的な本校への満足 ○教育目標及び内容の公開 ○保護者相談への適切な対応 (すべて満足度93%以上)	学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会(保護者)・各学校種管理職・評議員(学識経験者)により構成されている。2025年度学校評価に関する検討は2026年4月11日(土)に行われた。 <意見まとめ> ・アンケートでは評価が低くなっている校種間交流について、積極的に取り組むべきである。

7. 自己評価アンケート結果と分析(続き)	1. 学校関係者評価委員会からの意見(続き)
<評価が相対的に低かった5項目> ○機関連携による関係づくり・問題解決 ○施設設備の機能の十分性 ○家庭学習の十分性 ○トラブルやいじめの防止及び早期発見 ○幼稚園及び高等学校との交流・連携 (満足度78～80%)	・保護者の評価が高いことは一定の顧客満足が得られていることを意味していると考えられる。一方で、教職員の満足度が低いのは、自らがもう少し頑張らなければならないと感じているからなのだろうと思う。 ・子ども同士のトラブルやいじめに関するアンケート項目について、保護者満足度が教職員よりも低い点が気になった。近年は研修やドン・ボスコ子ども未来センターの協力、学校のチーム対応が根付いてきているが、それらの取組みを保護者に伝えることが足りなかったのではと感じている。いじめアンケートを定期で年3回、臨時実施を含めると年5～6回実施している学年もあるが、ある保護者から「いじめアンケートを行っていないですね」と言われたことがあった。いじめという言葉がひとり歩きしないようにとの配慮をできていたつもりだったが、保護者に安心いただけるように、学校側の複数の目で子どもを見守り、対応していることをお伝えするようにしなければならない。 ・いじめ等の問題について、「発見」や「対応」は早期に、と心がけている一方で、「解決」についてはスピードよりも丁寧さや納得感が重要であると考えてもいる。早期解決を求めてしまうと、往々にして後に火種を残してしまうものである。この点、保護者の求める解決のスピードと教職員の実践する解決のスピードは異なっており、教職員は丁寧な対応を行っていることに満足していても、保護者からは少し遅いのではないかとと思われることがある。保護者と密に連絡を取りながら、学校は丁寧に対応していることを伝える必要がある。 ・現状、学校評価にかかるアンケートは保護者と教職員を対象として行われているが、小学校高学年児童も加える形で同一項目にて(児童生徒向けの言葉に代えて)実施してはどうか。教職員、保護者、子どもたちの三者でアンケートを実施し分析することは有意義だと思われる。 ・校舎建設工事も進んできており、改めて安全管理の徹底をお願いしたい。 ・先般他校で事故事案が発生していることもあり、校外学習の安全実施に努めてほしい。 →校外学習については注意深く実施している。長崎平和学習旅行では、旅行の趣旨を厳守し、海に入ることはしていない。その他の校外学習でも安全を優先し、水辺で遊ぶことは控えている。
<アンケート総括> 【総評】 満足度を計測した全25項目のうち、前年度を下回ったのは5項目のみと、多くの項目で「満足」との回答割合が前年度よりも高くなりました。また全項目の満足度平均値も88.86%と高く、90%を超えた項目は過半数にあたる13項目となっています。本校の活動に高い評価をいただいたことを嬉しく思います。 【前年度との比較】 項目ごとの評価順位における前年度からの変動は大きいとは言えず、上位3項目も前年度と同じものが並びました。また、上位10項目については上記小25を除くすべての項目で「満足」との回答率が前年度より上昇しており、特に小5(安全・健康教育)と小12(保護者相談への対応)は順位を含め評価の上昇がみられました。一方で、前年度は3位だった小25(総合満足度)については、「満足」との回答率、項目間順位ともにやや下げてしまいました。 評価が下位となった項目についても前年度と重なるものが多くなっていますが、中では小8(家庭学習の促進)と小13(子どもの問題解決)が満足度、順位の改善幅が大きくなっています。逆に小18(施設設備の機能)や小7(家庭学習の十分さ)は前年度より順位、満足度ともに下げています。今後に向け、改善を進めていく必要があると考えております。 【小学校の魅力について】 「学校を選ぶうえで重視した点」については、上位4項目は前年度と同じでありながら、前年度は5位だった「進学実績」が7位に後退し、代わって「立地」が前年度6位から上昇しました。「宗教」はこれらに続く6位となっています。 「学校に期待すること」では、前年度において5位までに入っていた項目が本年度も同じく上位5項目となりました。ただし前年度トップだった「思いやりを教えること」が4位に後退し、代わって「主体的に行動する力を育てること」が前年度5位から首位に順位を上げ、選択率も上昇しました。今後の教育内容を考えるうえで注意しておきたいと考えています。	

【自由記述について】 小学校に対する要望が数多く記載されているものの、その多くが謝意とともに述べられており、かつ文言も柔和なものがほとんどとなっています。改善要望として多くみられたのは着衣及び給食に関する事項であり、本学園の教育方針に関しては大半の保護者各位からご理解いただけているものと考えられ、大変有難く思っております。	・「事件」と「事故」は異なる概念である。リスクを想定し万全を期しながらも発生したものは「事故」であるが、適切な準備や対応がなされずに発生したものはもはや「事件」である。学校として、絶対に「事件」を起こさないように注意すべきである。 ・「学校行事・学年行事の内容・頻度は適切である。」とのアンケート項目に関し、保護者満足度は非常に高いにもかかわらず、教職員評価が極端に低い。教職員は行事を負担に感じているのではないかと感じる。「学校は、幼、小、高の交流や連携を図ろうと努めている。」も同様に保護者満足度に比べ教職員満足度が低い。教職員は頑張らなければならないと思って過負荷になっていないだろうか。保護者は、教職員に継続して子どもたちの教育をお願いしたいと思っているので、くれぐれも頑張りすぎないようにしてほしい。いじめも保護者と教職員の関係で大変ではあると思うが、学校で教職員も守っていただきたい。 ・子どもたちを守るとともに学校を守っていくために、過剰なクレームを防ぐための指針を定め、学園ホームページに掲載すべきであろう。 →顧問弁護士には常日頃大変お世話になっている。いじめの定義が法的に定められて以降、学校の教育活動の範囲内での問題解決を図っていくのではなく、弁護士に依頼して対応していることが増えている。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

※ 満足度は学校評価アンケートで「5:とても満足」「4:まあ満足」の回答割合を示している。

※ 「年度評価」の記載内容は学校評価アンケートの結果を分析したうえで、当該目標にかかる活動全般を評価したものである。満足度85%以上で○、同60%以上で△、それ未満で×の表記としている。

中期的目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコの教育に立ち返り、柔和を体現し、子ども達と物理的また精神的に共にいる真のアシステンツァを実践する教師集団を目指す。	「道理」「信仰」「慈愛」に基づく教育を柱とし「Da mihi animas cetera tolle」の言葉の通り、ドン・ボスコの教育の本質を見つめなおす。	ドン・ボスコの後継者としての自覚	学校は、建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている。(満足度96.0%) 保護者として、建学の精神および教育理念に共感している。(満足度97.0%)	○クラス学年を超えて、子どもたちとのかかわりを持てた。

中期的 目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	ドン・ボスコの教育に立ち返り、柔和を体現し、子ども達と物理的また精神的に共にいる真のアシステンツァを実践する教師集団を目指す。	子ども、保護者に対しても教職員間においても柔和な言葉かけ、態度を心掛ける。	互いへのリスペクトの保持	教職員は、良識ある言動・気持ちの良い挨拶を実践している。 (満足度92.8%)	○以前に比べ教師の感情が表立つことは減ってきている。
				学校は、授業参観や各種通信発行などを通して、教育目標や内容の公開に努めている。 (満足度93.9%)	
		休み時間の遊びだけでなく、学校生活のあらゆる場面で、子ども達が教師の愛を感じられる環境を作る。	広い視野でのアシステンツァの実践	教職員は、授業や休み時間、あらゆる場面での指導や声かけを通して、子どもたちに寄り添い、「アシステンツァ」の実践に努めている。 (満足度90.2%)	○子どもの良い面に目を向けるよう心掛けた。
2. 園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	(A) 新校舎に向けて、刻々と変わる環境の中で子ども達が安心して過ごせるよう、安全教育をすすめる。	新築工事に伴い、避難訓練や安全教育を通して、避難経路等の確認等を行い、子ども達が安全に過ごせる環境を作る。	安全のための環境整備、各種訓練の実施	学校は、避難訓練、感染防止対策の指導、下校指導等、適切な安全・健康教育を十分実施している。 (満足度93.9%)	△工事の状況の把握が今一つ分かりにくい。その都度安全確認が必要。
				学校の施設・設備は、安全管理と清掃が行き届いている。 (満足度88.6%)	
	(B) 子ども未来センターと連携を取り、子ども達の心が安心できる環境造りをする	子ども未来センターと連携を取り、様々な課題を持つ子どもに寄り添い、校内に心の安らぐ受け入れの居場所を作る。	全ての子ども達が安心できる居場所づくり	教職員は、保護者の相談に適切に対応している。 (満足度93.4%)	△学年内で事あるごとにケース会議を行い、チーム学校として、初期対応に努めている。さらなる浸透と徹底を図りたい。
				学校は、教職員同士やドン・ボスコ子ども未来センター(教育相談室)と連携しながら、子どもたちのよりよい関係づくりや問題解決に努めている。 (満足度80.0%)	
				学校は、子どもからの訴えやアンケート(ひかりのこアンケート・年数回実施)結果を踏まえ、トラブルやいじめの早期発見と解決に努めている。 (満足度78.9%)	

中期的 目標	中期行動計画	年度行動目標	ねらい	関連する学校評価アンケート項目及び満足度	年度評価
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	(A) 校内研修だけでなく、外部研修で研鑽を高める。	現状にとどまることなく、様々な学びの在り方を模索し、一人ひとりがかけがえない輝ける教師像を目指す。	外部研修への参加とフィードバック	—	△外部研修への参加ができていない。来年度はテコ入れを一段深める。
	(B) 姉妹校、連携校との連携を進め、相互の教育理解と一致を深める。	チャレンジゼミ等の他校からの出前授業や情報交換会、児童交流、説明会を進め、姉妹連携校との連携を深める。	連携校、姉妹校との連携強化	学校は、サレジオー貫教育強化に向け、チャレンジゼミ実施はじめ、大阪星光学院との連携を深めている。 (満足度88.3%) 学校は、教育連携校はじめ、他の進学希望校の情報収集や紹介など、進路指導に努めている。 (満足度85.3%)	○サレジアンタイム等、姉妹校の活動にも目を向け取り入れた。
	(C) 校内での自主研修を励行し、教員集団での学び合いを深める。	教師自ら研修を企画し、互いに高めあえる教師集団を目指す。	自主研修の企画立案実施	—	△教員で自主研修の参加や実施に偏りがある。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	(A) 学園施設の共有を円滑に行うため、校種間の情報共有をすすめる。	校種間の報連相を密に行い、施設の共有を円滑に進める。	他校種との連携強化	学校は、幼、小、高の交流や連携を図ろうと努めている。 (満足度78.5%)	△幼稚園との交流を深める行事を企画したい。
	(B) 施設の変化を受け入れ、前向きな話し合いを進める。	フレキシブルな施設共有と活用の在り方を前向きに発案し、実施する。	学園施設の有効活用	学校は、幼、小、高の交流や連携を図ろうと努めている。 (満足度78.5%)	△アンケート結果は振るわなかったが、施設予約の方法が明確になり、譲り合いの精神が育ってきている。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	(A) 教会やサレジオンシスターズ、地域などのイベントに率先して参加する。	Faccio io Vado ioの精神を行動原理とし、自ら進んで協力し、城星の魅力を発信する。	カトリックミッション校の教師、サレジオンとしての自覚	学校は、子どもたちの基本的な生活習慣の定着と自立を目指して、適切な生活指導を行っている。 (満足度90.7%)	○教師集団としてFaccio Ioを意識できていた。
	(B) 後援会・同窓会と連携を取り、子ども達の学びにつながるイベントを企画する。	サレジオンファミリーとして、共に子ども達と関わる喜びを共有できるよう心掛ける。	後援会、同窓会等との連携深化	学校は、同窓会・同窓生や後援会との連携を図ろうと努めている。 (満足度83.1%)	△今後、関係をより強化していきたい。サマーフェスタに何らかの形で参加したい。
	(C) コンプライアンス研修を進め、良心的な人間、良き社会人として成長する。	建学の精神を教師自身が生き、体現できるよう心掛ける。	社会人の模範となる教育者への成長	学校は、保護者に対して建学の精神および教育理念をわかりやすく示している。 (満足度95.6%) 学校は、個人情報適切に取り扱っている。 (満足度95.3%)	○学園内での研修がもっと組まれてもよい。